

ソーシャルファームという新しい仕組み

設立に向けて！

◆誰もが役割のある「まち」をめざして

すべての人たちが自らの能力や可能性を生かす「役割」や「仕事」をもち、誇りをもって、生き生きと暮らすことができる地域をつくろうと、「淡路ソーシャルファーム設立準備会」が主催するあわじ環境未来島セミナーが、8月20日、緑市民センターで開催されました。



▲講演する炭谷 茂さん

「淡路ソーシャルファーム」設立に向けての考え方や取り組みを伝え、話し合い、ネットワークづくりに向けての呼びかけをしました。

◆ソーシャルファームとは、障害者や高齢者あるいは労働市場で不利な立場にある人たちのために安定的に仕事を生み出し、支援つきの雇用の機会を提供するとともに、賃金も確保して支給するといった

社会的な目的をもって活動する企業や組織のことです。「福祉的雇用」でもなく、「一般雇用」でもない「第三の雇用」ともいわれています。



コーディネーター ▲堤 幸一さん(SODA事務局次長)



パネラー ▲上原 泉さん(小学校教諭)



パネラー ▲皿 保憲さん(淡路市社会福祉協議会北淡支部長)



パネラー ▲松下 徹さん(淡路障害者生活支援センター施設長)



▲緑市民センターでのセミナー

◆セミナーでは、日本のソーシャルファーム支援を行っている元環境事務次官の炭谷茂さんが「誰もが働ける社会づくり」について講演。「障害者や難病者、高齢者、ニート、引きこもりの若者など、労働市場において不利な立場にある人たちが日本には2千万人以上いる。このような人たちが福祉作業所などの機関や一般企業での就労には限界があり、ソーシャルファームへの期待が高まっている」と話しました。また、「今後の成長産業としても社会的意義が大きく、日本でも環境、農業、酪農、福祉、サービス業などの分野で展開されている」と数々の事例を紹介しました。

◆パネルディスカッションでは、島内で教育や社会福祉、障害者支援に携わっている関係者らがパネラーとなって、それぞれの立場での現状や課題を話し合いました。障害者らへの支援として、どのような仕事(就労)につながる可能性があるか、受け入れ側(職場)の環境づくりや、仕事に就くための学校教育がどこまで意識されて行われているか、多様化している障害にどう対応していくかなどが話し合われました。

下水道接続推進大会

下水道加入促進課



▲テキストをもとに講演する下水道アドバイザーの渡邊克宏さん

下水道の適切な接続工事の施工と下水道への接続普及をめぐり、8月30日、緑公民

館で下水道排水設備事務連絡会(接続推進大会)を開催しました。市が指定する排水設備工事店の162人が出席して研修と接続状況の報告を行いました。

研修では、下水道アドバイザー渡邊克宏さんが排水設備について講演。「下水道の必要性をあらためて認識し技術向上を図っていこう」と話しました。また、正しい施工技術と住民との円滑な関係づくりを大切にして、さらなる下水道の早期接続への協力をお願いしました。

元気で長生き、100歳を祝う

平成23年度に100歳を迎える高齢者22人(男性6人、女性16人)のうち、訪問を希望された7人を中田勝久市長



▲笑顔を見せるまさのさん

が9月11日に訪ね、祝い状と羽毛布団を贈りました。堤まさのさん(倭文)宅ではまさのさんが家族と一緒に市長を迎えてくれました。

まさのさんは、今年の2月に玄孫が誕生し、家族が5世代になりました。食事を毎日しっかりと食べており、特に誕生日には好物のオムライスを食べているといいます。中田市長は、「これから先、いつまでも元気で長生きしてください」と激励しました。

高齢者7人を訪問



▲まさのさんは食事をしっかり食べ、よく眠ると家族は話します

また、101歳以上の高齢者には、市の幹部職員が希望者の6人を訪問し長寿を祝いました。

義援金

市と社会福祉協議会では、東日本大震災の被災地復興支援のため義援金を受け付けています。

義援金総額※9月15日現在

- ①個人・団体 326件
 - 1854万581円
 - ②義援金箱 218件
 - 489万7351円
- ▲社会福祉協議会
44・3007

ふれあい市長室

10月23日は防災訓練。迅速な行動が命を救う

南あわじ市長 中田勝久

自然災害が多発しています。ハード事業には限界があり、「自分の命は自分で守る。家族の命は家族で守る。地域の命は地域で守る」津波警報・注意報が発表されたら、まず高台に逃げる。日頃から実践訓練を行い、避難路や避難場所など、自分自身の頭と身体に十分覚え込ませておくことと繰り返し申し上げてまいりました。自治会、行政が一体となって地域に適した避難マップの見直しを早急に行わなければなりません。

10月23日は地震・津波を想定した防災訓練の日です。是非ともご参加いただき、いざという時、迷うことなく対応できる体制を整えていただくようお願いいたします。

先日、福良小学校、ちどり保育所が大地震や大津波を想定し、児童・園児、先生方合わせて約400人という大人数での避難訓練を行いました。

地震発生の際に放送機の下にもぐり、揺れが収まると上履きそのままグラウンドへ。先生方が安否や人数を確認。その後津波警報が発令されたとして、園児を連れて5、6年生や乳幼児がさらに高台へ避難。1、4年生も坂道を駆け足で逃げた。課題はありますが、これら一連の全ての行動が、初めてにもかかわらず何と13分程度で行ったと大きく報道されました。

これは、先生方の適切な指導、保護者や子ども達の意識の高さ、南あわじ警察署の方々のご尽力など、色々な積み重ねがなされたことだと思いました。

また、阿万吹上地区では、避難路の見直しを自ら行い、雑草に埋もれていた40年前の細い旧道(通学路)を復活させ、お年寄りでも逃げやすい避難路を確保するため、計画を具体化しております。

一方、消防団のご苦労と併せて、自主防災組織が被災の根幹を成します。地域の命である災害弱者を日頃から把握し誰が助けるか、何で運ぶかなど、それぞれの役割分担や確認が大切です。

市民の皆様におかれましては、地震、津波、風水害などの自然災害に「命」を奪われないために、準備を整えていただきますようお願いいたします。

ふるさと納税

寄附状況の公表 (9月16日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	396件	53,639,719円
市外(島内)	53件	7,301,000円
市外(島外)	238件	29,174,940円
合計	687件	90,115,659円

詳細は市のホームページに掲載しています